

### 3. 共通分野研修プログラム

#### GIO

良き市民であり、社会に貢献する、プロフェッショナルとなる基盤をつくり、安全を優先した考え方ができること。

#### SBO、方略、評価

患者を全人的に理解し、患者・家族および医療従事者と良好な人間関係を確立する。

科別ローテートにおいて担当患者に説明を行い同意文書に署名をもらう。(記録の確認)

プライバシーへの配慮ができる、守秘義務を果たす。(指導医部会で評価)

医療チームの構成員としての役割を理解する。(指導医部会で評価)

自己管理能力と生涯にわたる自己学習の習慣を身に付ける。

健康診断を受ける。(健康診断記録の確認)

社会人としての節度を身に付け内省を怠らない。(身なり言葉遣いを指導医部会で評価)

担当委員会へ出席する。(出席記録による確認)

院内外の講演会に出席する。(出席すべき講演会、病院集談会、MRM、感染)

患者及び医療従事者にとって安全な医療のみを遂行する。

悪い結果を含むあらゆる可能性を考えることができる。(指導医部会)

最悪の事態の想定ができる。(指導医部会)

医療安全講習に出席する。(明示された出席すべき講演会)

緩和・終末期医療を経験する。

科別ローテートの担当患者の死亡診断書を記載する。

患者家族への剖検の説明に立ち会う、剖検に立ち会う、CPC に出席する

CPC レポートを作成する。(CPC レポートによる確認)

緩和チームに担当患者について相談できる。(診療録記録による確認)

### 3-1. 多職種協力教育プログラム

GI0

初期研修医が病院の構成を理解し医師としてチーム医療の一員としての役割をはたす。

#### I. 看護部

##### 1. 行動目標

- 感染予防の基礎知識習得
- 安全に実施するための技術習得
- 退院支援、高齢者の理解
- 海外の医療事情を知る
- チーム医療の一員であることを知る

##### 2. 方法 講義、実技、模擬カンファランス

##### 3. 時期 オリエンテーション、年間を通して

##### 4. 評価 アンケート、評価表、適時のフィードバック

#### II. 薬剤部

##### 1. 行動目標

- 適切な輸液と薬剤の組合せを選択し注射薬を処方することができる
- 処方箋の運用を理解して処方することができる
- 不備のあった処方を修正することができる
- 入院患者の処方および持参代替薬を処方することができる

##### 2. 方法 講義、報告会、実技、疑義照会

##### 3. 時期 オリエンテーション、年間を通して協力しあう体制

##### 4. 評価 評価表、適時のフィードバック、出席 疑義照会によるフィードバック

#### III. 検査部

##### 1. 行動目標

- 採血・細菌・病理検査の検査依頼、輸血製剤の取扱いがわかる

検査部門の組織を知り、指示出しや検査結果返却のルールがわかる  
血液型が検査できる  
細菌検体の採取、グラム染色や薬剤感受性検査がわかる  
病理検査の依頼、剖検の依頼方法がわかる  
生理検査の依頼、超音波検査の手技がわかる  
血小板数測定のパットフォール、検査法、凝固剤による値の乖離を知る  
検査データの異常、特に測定法などに起因する事例がわかる  
保険点数と検査コストがわかる

2. 方法 講義、実技、評価表
3. 時期 オリエンテーション、年間を通して
4. 評価 評価表、適時のフィードバック、出席

#### IV. 放射線部

1. 行動目標
  - 撮影室の場所及び撮影の特徴を理解する
  - 造影検査の禁忌事項を理解する
  - 画像読影の見落としを無くす
  - NGカテーテル挿入時の位置異常の早期発見
  - MR検査を安全に行う
2. 方法 講義、報告会、実技、照会
3. 時期 オリエンテーション、年間を通して協力しあう体制
4. 評価 評価表、適時のフィードバック、出席

#### V. リハビリテーションセンター

1. 行動目標
  - リハビリテーションの意義、POS各職種の特徴を知る
  - リハビリ指示の出し方が分かる、リハ計画書の医師欄の記入ができる
  - 脳卒中患者の退院を念頭に置いた診療（方針立案）ができる
  - 心臓リハビリテーションの評価・訓練の実際を知る
  - カンファランスに出席し、方針の検討について知る

2. 方法 講義、報告会、実技、カンファランス出席

3. 時期 オリエンテーション、年間を通して協力

4. 評価 適時のフィードバック、出席

## VI. SMI センター

### 1. 行動目標

- ① 医療機器の管理を知る、必要なものがどこにあるかわかる
- ② 輸液ポンプ、シリンジポンプを安全に使用できる
- ③ 呼吸器を準備し指示された設定ができる
- ④ 医療機器使用に伴う危険を説明できる

2. 方法 講義、実技

3. 時期、オリエンテーション、1年次前半

4. 評価 出席、報告会、  
研修医の問合せに応える、  
適時のフィードバック

## VII. 地域医療連携・相談室

### 1. 行動目標

- ①地域医療支援病院としての中京病院の役割がわかる
- ②前方連携の仕組みや流れがわかる  
診療情報提供書の流れ等
- ③広報連携の仕組みや流れがわかる  
退院支援・退院調整の流れなど
- ④患者の置かれている背景を把握し適切に地域医療連携・相談室へ相談ができる

### 2. 方法

- ①講義
- ②報告会

### 3. 時期

オリエンテーション、年間を通して

#### 4. 評価

出席

### VIII. 介護老人保健施設

#### 1. 行動目標

- ① 医療から切り離すことのできない介護制度を知る
- ② 回診カンファランスを通して高齢者医療の実情を知る

#### 2. 方法 講義、当番回診

#### 3. 時期、オリエンテーション、年間を通して回診当番として出向

#### 4. 評価 適時のフィードバック

回診、カンファランスの出席

### IX. 健康管理センター

#### 1. 行動目標

- ① 健診を通して組織の一員であることを理解する
- ② 接遇に注意した医療面接ができる（傾聴する態度）
- ③ 受診者にわかりやすく結果説明できる

#### 2. 方法 講義、当番制

#### 3. 時期、オリエンテーション、年間を通して健診当番として出向

#### 4. 評価 出席、報告会、

適時のフィードバック

顧客満足度アンケートをフィードバック

### X. NST（栄養サポートチーム）

#### 1. 行動目標

- ① 入院時の食事指示ができる
- ② 栄養指導の必要性を理解する
- ③ NST の理解を深め、臨床に生かす
- ④ 経管栄養の実際を知る

#### 2. 方法 講義、カンファランス

#### 3. 時期、オリエンテーション、年間を通して

4、評価 出席、報告会、  
研修医の問合せに応える、  
栄養指導に同席する